

学校教育目標		心豊かで、主体的に学びたくましく生きる生徒の育成		重点目標	自他を大切にし、進んで主体的に学び、たくましく生きる生徒の育成 ～認め合い 支え合い 高め合う～		
重点目標		評価計画		自己評価		学校関係者評価	
重点目標		目標達成のための方策 (取組指標)	目指す児童の姿 (成果指標)	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント
重点目標に關する評価	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書いて伝える場面を設定し、めあて、まとめ、振り返り、主体的深い学びのある授業を行う。</li> <li>学びに向かう姿勢や意欲の向上に向けた取り組みに学習習慣、自己把握や調整力の向上に向けた取り組みをする。</li> <li>基礎・基本的な知識技能の向上に向けた繰り返しによる場面の設定や個に応じた学習の指導や家庭学習の取り組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを生かして、自分の考えでまとめる活動をしている。(生徒ア3.0①)</li> <li>自分で考えを深めたり、広げたりすることができる。(生徒ア3.0②)</li> <li>授業は、前向きに参加している。(生徒ア3.0③)</li> <li>自分で計画を立てて勉強している。(生徒ア3.0ア④)</li> <li>学習の定着に向けて、ふり返ったり、見直ししたり、繰り返し学習している。(生徒ア3.0⑤)</li> <li>学習は、自分にあった考え方や教材・学習時間ができている。(生徒ア3.0⑥)</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から、平均すると3.05①であるが学年によって少し数値が減少している。</li> <li>タブレット端末を活用することで、自分の考えを表現し、友達にわかりやすく伝えることができた。(3.04②)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>タブレットを活用することで自分の考えを表現しやすくしている。</li> <li>ICTを取り入れた授業づくりの結果、意欲的に取り組む場面が増えたり、考えを表現しやすくなっている。</li> <li>意欲を高めるための課題づくりや工夫をさらに進める。</li> <li>学力向上に向けてなをどのように使うと効果的か探ることが課題である。</li> <li>落ち着いた学習態度で授業に臨んでいる。</li> <li>CD層を(学力定位層を)減らしていないための取り組みの具体化を進める。</li> </ul>
	豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の良さを認め合い協力し合う仲間作りのための場面の設定、自己決定や行事カードを活用した活動の工夫をしている。</li> <li>良好な人間関係育成のため、体験活動の工夫、教育相談の充実、交流の場面の設定をしている。</li> <li>最後まで粘り強くつづけ、変化に対応する力を育成する場面を意識して取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と信頼し合い、協力し合っている。(生徒ア3.0⑦)</li> <li>自分を見つめ、自分の個性をもっと伸ばそうとしている。(生徒ア3.0⑧)</li> <li>あなたの気持ちをわかってくれる人がいますか。(生活ア3.0⑩)</li> <li>相談できる先生はいる。(生活ア3.0⑩)</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から、平均すると3.4⑦であり、協力し合う意識が高い。</li> <li>合唱発表会や体育祭など、行事カードの記載から、行事に対する達成感が高い。(3.1⑧)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>行事を通じて自己有用感も上がってきている。</li> <li>成長の契機となる学校行事の取り組みが充実できている。</li> <li>SNSトラブルに対応する有効な対策を継続的に続ける必要がある。</li> <li>個々の良さを認めたり、頑張っている人に気づき感謝する場面作りを進める。</li> <li>SNSをはじめ学び合うルール作りと相手の気持ちを察し合う対応を推進する。</li> </ul>
	健康や安全な生活ができる環境作りと将来への希望を持つ人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強運動や体幹運動を取り入れ、新体力テストの記録向上を図る。</li> <li>学校活動を通して多面的、多角的に物事を見て、将来への目標を考える場面を設定している。</li> <li>自らの健康や安全・安心の暮らしのために何が必要か考える場面を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストの結果が全国平均を超え、バランスのいい体力向上に繋がっている。(体力テストデータ)</li> <li>いろいろな見方考え方の場面があった。(生徒ア3.0⑪)</li> <li>活動の目標や振り返りをしながら今後の自分のあり方を考えることができた。(生徒ア3.0⑫)</li> <li>寝る時間(12時まで)睡眠時間(6時間以上)を意識している。(生徒ア3.0⑬⑭)</li> <li>スマホやゲーム利用時間(学習意外)平日2時間以下になっている。(生徒アンケート⑬⑭⑮)</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、補強運動・体幹運動等を真剣に取り組むことができている生徒が多く、運動・スポーツに意欲的に取り組むことができているため、3年の記録は男女とも1年時よりも向上している</li> <li>アンケート結果から、3.11⑬3.0⑭であり、道徳・教科等場面の設定はできている。</li> <li>タブレットやキャリアパスポートなどを活用し、学校活動の記録や評価に取り組むことができている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>新体力テストの結果を生かした授業が良いと思われる。</li> <li>意欲的に運動・スポーツに取り組むことを体力の向上につなげていただきたい。</li> <li>スマホゲームの利用時間が問題である。</li> <li>スマホゲームについては家庭との連携でより良い方向にいけばと思う。</li> <li>スマホの活用利用についての指導を充実させるために、セルフコントロールする能力の向上を道徳や生活などを活用し高めるとともに小学校とも連携していく必要がある。</li> </ul>
	いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級・学年経営等で「心の絆づくり」「居場所作り」を進めている。</li> <li>様相観察やアンケートによる感知による早期認知、およびいじめ防止対策委員会の記録ファイルを作成し、情報共有を徹底し対応を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほっとしたり楽しい気持ちになったりすることがある。(生活ア3.0⑯)</li> <li>困っている人を助けてくれる人はいますか。(生活ア3.0⑰)</li> <li>早期認知・把握とそのすべてを経過観察および解消している生徒数</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果から、3.56⑰であり、「心の絆・居場所作り」ができている。</li> <li>生徒会では、感謝の気持ちを表す取り組みや授業での教え合いの取り組みを実施している。(3.7⑱)</li> <li>いじめの認知件数は昨年より減少している。トラブルも含め早期の認知と経過観察の継続により解消している。</li> <li>生徒理解の研修を実施し、状況に応じて様々な機関と連携し対応を進めている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>全体的に落ち着いた雰囲気がある。先生方の声掛けが有効である。</li> <li>心の絆・居場所づくりはとても重要なこと、ホッとしたり楽しい気持ちになる生徒が多いことは素晴らしい。</li> <li>継続的な人間関係作りを通して、いじめのない学校づくりに取り組む必要がある。</li> </ul>
不登校防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>未然防止や不登校をうまない学校作りのために、「授業づくり」や「居場所作り」の学年・学校経営をしている。</li> <li>早期発見・早期対応に向けて「福岡アクション3」の活用や「生活アンケート」による教育相談、学年や各関係者等との協働による対応をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に行きたくないと思うことはある。(生活ア3.0⑳)</li> <li>友達や先生とのことで、学校に行きたくないと思うことがある。(生活ア3.0㉑)</li> <li>不登校の改善が見られる生徒の増加</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校に行きたくない」が微増している。魅力ある学校作りを推進する必要がある。(3.3⑳3.7㉑)</li> <li>アンケートから、人間関係での環境作りは、意識して進められている。</li> <li>不登校の生徒は、昨年度より増加している。改善がみられる生徒の人数はあまり変わらない。</li> <li>不登校の全ての生徒が、関係機関との連携や支援体制の中に位置づけられている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>相談室や保健室での対応が良い方向へつながっている。</li> <li>不登校を未然に防ぐために「魅力ある学校づくり」を心掛けてほしい。</li> <li>アセスメントと組織的な支援体制の整備を推進する。</li> <li>コミュニケーションコストを意識した対応や人間関係作りを進める。</li> </ul>	
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間のなかで、タイムマネジメントの工夫や改善をしている。</li> <li>ワークライフバランスの意識を持って、バランス良く働くことをめざそうと強めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>超過勤務45時間以内 (50%)</li> <li>超過勤務80時間以内 (90%)</li> <li>ワークライフバランスを考え、年休の計画的な取得ができている。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動休業日や水曜日の授業設定の効果もあり、昨年度より、超過勤務時数も減少している。</li> <li>タイムマネジメントの工夫や改善もみられる職員が増えている。</li> <li>昨年度より、年休取得時間が増加している職員が増えている。</li> <li>ワークライフバランスの意識は高まり、実践できている職員も増えたが、職員により差がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の評価は適切である。</li> <li>ワークライフバランスの意識は高まっている。</li> <li>今後も働き方改革につながるような取り組みをしていただきたい。</li> <li>タイムマネジメントに対する意識を高め、具体的な良い実例を示してはどうか。</li> </ul>	

◇ 評価について 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70~90%) 2:もう少し(60~70%) 1:できていない(60%未満)  
【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである